

海水浴場 白砂青松の大衆リゾート

日差しも強くなり、海が恋しくなる季節です。夏のレジャーを代表するものに海水浴があります。田原町には仁崎海水浴場と白谷海水浴場があり、半島内には他に宇津江海水浴場、伊良湖海水浴場があります。海開きとともに、毎年多くの方々がここを訪れます。

ここに2枚の写真があります。ともに今はなくなった海水浴場の写真です。一枚は片浜海水浴場の絵葉書、



●片浜海水浴場の絵葉書

もう一枚は馬草海水浴場の写真なのです。中でも、馬草海水浴場があったことをみなさんはご存知でしょうか。



●馬草海水浴場の写真

片浜海水浴場は、現在の片西区画整理の前にありました。明治時代終わり頃から田原中部小学校の水泳練習所として利用され、大正時代からしだいに海水浴客が訪れるようになってきました。写真は「昭和5年頃のもの」と思われます。昭和5年の『渥美半島案内』という冊子を見ると「片浜海水浴場木戸三別館」「片浜海水浴場尾張屋支店」「丸八保勝亭」があったことが書かれています。木戸三、尾張屋は言わずと知れた田原の料理旅館の名店です。片浜にこれだけの旅館があったとは驚きです。当時の片浜は、渥美半島の一大リゾート地だったのです。

馬草海水浴場も大正時代からあったようで、戦後も続いていました。『渥美半島案内』には「東海道の海水浴場と違い土地が田舎だけに御客同

士は見栄を張る様な事はなく費用が少なくて保養ので来る処である」と書かれており、海水浴というレジャーが浸透していたことがわかるとともに、「庶民派」の海水浴場として各地から人々が訪れていた様子がうかがえます。

片浜海水浴場は、臨海の埋立によって昭和43年に西に移転し、新片浜海水浴場として生まれ変わりましたが、やがて閉鎖され、その後、仁崎海水浴場につてかわりました。

20年ほど前までは、海水浴場に必ず飛び込み台があり、腕白な子供たちが飛び込む、また宙返りする姿が見受けられました。30代以上の方にはそんな思い出ありませんか。

絵葉書には「白砂青松」という言葉が添えられています。これは美しい海岸を表す言葉です。砂の広がる浜、そして松が立ち並ぶ姿は、日本を代表する原風景です。当時の人々にとつては海水浴よりその風景に身を置く事が、本当は一番大切だったかもしれません。

かつては伊良湖岬より観光地として栄えた田原の海水浴場。時代は変わり、人々のレジャーの嗜好も変わってしまいましたが、夏といえやはり海です。今年は海で過ごす機会もいかがでしょうか。

▽田原町博物館 ☎22局1720

今月の表紙 COVER STORY

世界で一番有名な凧は恐らく、アメリカの父と言われるベンジャミン・フランクリンの凧でしょう。18世紀、彼は勇敢にも雷雲に向けて凧を揚げ、雷の正体が電気であることを証明して、のちに避雷針を発明しました▼さて、小学校も満身に卒業しないまま、しがたない印刷工としてスタートした彼は、事業者・科学者・発明家・思想家・政治家・作家・文化人として、さらに人格者としてそのすべてに成功を収め、アメリカンドリームを体現した人物でもあります▼ほとばしるバイタリティと枯れることのない探求心。彼は、きつと良い意味で「糸の切れた凧」のような人だったのでしよう▼風をあつめて空高く舞い上がる凧。操る人の肉体は地上にあっても、心は遙か大空に。(写真・5月26日に行われた田原凧合戦では、手に汗握る戦いが繰り広げられました。)

【人口と世帯数】

総人口	36,822人	
男性	18,787人	
女性	18,035人	
世帯数	11,515世帯	
出生	28人	死亡 21人
転入	86人	転出 100人
増減	-7人	

(平成14年6月1日現在・増減は5月中)

【行政面積】 82.86 km²

(平成11年10月1日現在・国土地理院調べ)